

言語文化教育研究学会会員各位

言語文化教育研究関係者各位

言語文化教育研究学会理事会

2018年2月吉日

学会の理念について、ご意見を募集します

拝啓 平素より言語文化教育研究学会の活動へのご参加ご尽力を賜りありがとうございます。  
ます。

さて、先の理事会において、当学会の目的・理念についての文面改訂が提起されました。2014年7月の学会創設以来、「言語文化教育研究学会とは」として、その目的を内外に告知しておりました\*が、今や日本学術会議協力学術研究団体として300名を超える会員がさまざまに広く活動を展開する学会となるに至っており、その文面が実態に追いついていないとの現状認識による提起でした。

そこでこのたび理事会では、新たな文案を用意し、これについて会員各位よりご意見（および、非会員からもご期待やご希望）を頂戴することで、最終案を作成することといたしました。

つきましては、下記文案について広くご意見を頂戴したくお願い申し上げます。言語文化教育研究学会の益々の充実した活動にむけ、どうぞ忌憚のないご意見・お考えをお寄せくださいませ [※2018年2月末日締切でお願いします]。 敬具

## 記

改訂版：言語文化教育研究学会とは（案）

### 目的

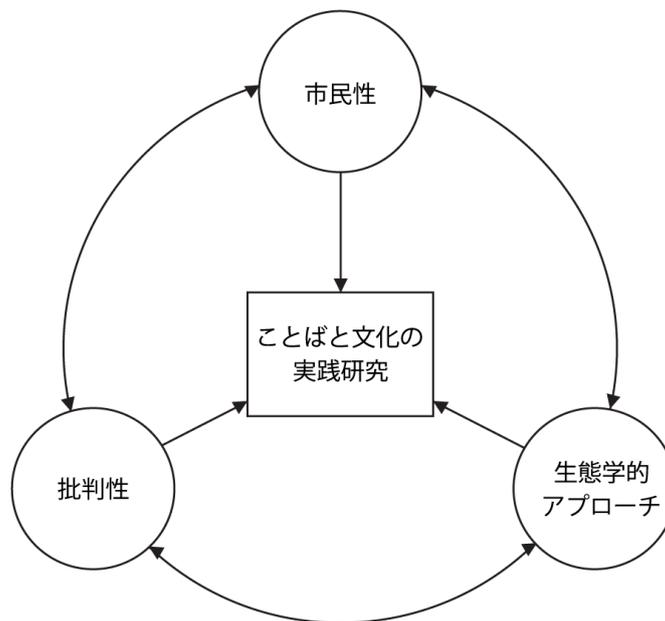
言語文化教育研究学会は、ことばと文化の教育とは何か、ことばと文化の教育を研究するとはどういうことかを広く議論するための対話の場の設定を第一の目的として設立されました。

---

\* <http://alce.jp/aboutus.html>

近年の諸学会設置が次々に研究分野・領域の細分化に向かう中で、本学会は、多領域にわたる横断的連携を試み、また、実践現場・教育現場に根差した議論を積み重ねることで、ことばと文化の教育の実践研究の充実に寄与することをめざします。

私たちの考える実践研究の定義は、教室実践に役立つ研究という狭義のものではありません。その定義は、教室実践を含めことばの教育における市民性構築の実践や生態学的アプローチに基づいた言語文化研究の実践を批判的に考えていくものであり、理論構築の実践などをも含むものとして考えます。



## ■市民性

現代の世界は、国や言語や文化の境を越えて様々な背景を持った人々が共に生きています。そのような中、複数の文化、複数のことばが会う場において、よりよい社会とその社会参加の意識を形成するための市民性教育（シティズンシップ教育）がこれまで以上に必要となってきています。当学会は、より社会包括的な場や市民の意識を形成するためにことばと文化の教育・研究は何ができるかについて議論を交わす場を、提供します。

## ■批判性

自分たちの生きる未来、そして、コミュニティの未来を創造するためには、既存の枠組みを政治、経済、社会、歴史などという大きなコンテキストとのつながりから見直

し、必要があれば変えていこうとする批判性（批判的な意識・視点・姿勢・態度）を育てていくことが大切です。そして、それはその実践に携わる教師や研究者にも求められるものであります。よって、このような未来を創造することに重きをおく批判性を重要視します。

#### ■生態学的アプローチ

ことばや文化は狭義のシステムとして自己完結するものではありません。ヒト・コト・モノはすべてお互いに影響し合っていて、それらはより大きな社会、環境、さらには生態系の一部となっています。そのような視点から言語文化教育を考えます。

以上